



©「手塚治虫のブッダ」制作委員会

©手塚プロダクション

鉄腕アトム連載60周年 映画ブッダ製作記念

# 手塚治虫展

2012年(平成24年)4月14日(土)~6月3日(日)

休館日/毎週月曜日

主催/手塚治虫展実行委員会

郡山市立美術館 福島民友新聞社 福島中央テレビ

後援/読売新聞社東京本社 ふくしまFM

企画制作/手塚プロダクション

制作協力/東映株式会社

観覧料/未定

※2月中旬前売開始予定。

手塚治虫(1928-1989)は日本を代表するマンガ家、アニメーターとして世界中に知れ渡っています。戦後のマンガ文化は、彼をひとつの指標として展開してきていることに疑いはありません。

24歳で上京するまで、手塚は兵庫県宝塚市で過ごしました。彼はそこで、昆虫採集を楽しみ、十代で既に克明でしかも繊細な昆虫の写生帖を作っています。その驚くべき観察眼は、専門的に絵を学ばなかった彼にとっての終生の財産とよく、彼のすべてのマンガ作品に共通する、破綻のない絵作りに直結しています。また、少年時代は宝塚歌劇や映画を観たりする一方で、戦争体験もしています。その中で培われた科学的な眼と生命への尊厳の思いとは、『火の鳥』や『ブッダ』へと結実しました。また、後期の傑作『ブラック・ジャック』は、医学博士号を取得していた彼でなければ描けなかったものです。

マンガ家として、彼は「ストーリーマンガ」と呼ばれる新たなマンガ表現の確立に努め、アニメーターとしては、国産初の30分テレビアニメシリーズの放送を成功させました。

手塚治虫は、作品に読者や視聴者へのメッセージを込めています。彼の魅力的なキャラクターたちによって繰り広げられる「手塚ワールド」は、手塚治虫が今世紀の私たちに残してくれた文化遺産です。「人間とは何か」「生命とは何か」など、今も作品を通してメッセージを発し続けている手塚治虫の世界をお楽しみください。

## 美術館のなつやすみ

今年は大変な年でしたね...  
 おや、何やら黒と白の  
 不思議かわいい生き物が。

黒:「は、今年の夏もあつかったね」

白:「あつかったわね」

黒:「でも、美術館はずし良かったよね。」

白:「いつも22℃だからね。」

黒:「今の時期は逆にあつたかいしね。」

白:「あつたかくてねむねむだ  
 おやすみ。」

黒:「え、まだ勤務時間中よお」

白:「でもさあ、勤務していても、

花形の写真撮影会はベネロべばかりだしさ。」

黒:「まあまあ、展覧会のテープカットに登場したし、

テレビにも出たし、

がんばったほうよお」

黒:「そういえばさあ、

なつやすみの美術館って

かなりにぎやかだったよね」

白:「たったわね。」

黒:「小学生の作った美術作品が

きれいに飾られていたわね。」

白:「毎週学校が変わって、楽しかったわ」

黒:「ほくの作品もこっそり飾ればよかったな。」

白:「夏まつりもあってたよな? 図工や美術は苦手だけど、

お祭りなら参加してみたいよね」

黒:「え、どうだったわね。あたしなんか、みんなでおいしそうな食べ物作ってるの見ちゃったわ。つまみ食いしたら、ほんものそっくりだけど食べられなかったのよー」



リサとガスパール&ベネロべ展オープン



撮影会 ベネロべがやってくる!

